

中学生の「税についての作文」で

『伊予市長賞』を受賞

先月号に引き続き「税についての作文」をご紹介します。今回は、『伊予市長賞』を受賞した港南中学校3年の橘芳恵さんの作文です。

社会と税金

橘芳恵さん(港南中3年)



現在、納税は国民の義務として憲法で定められ、私たちは税金を納めている。

しかし、納められた税金の使いみちはどうなっているのだろうかと疑問に思い調べてみると、警察や消防など私たちのために役立つものや、福祉・教育など社会の助け合い

のために使われていることが分かった。

その中でも一番多くの目的で使われているのが、安心して生活を送るために必要な社会保障にかかるとのことだ。介護サービスの利用や年金の一部に使われるなど、社会保障だけでなくさまざまなところで税金が使われている。これらは私たちの生活になくはならないものだが、一方で大きな問題も抱えている。現在、日本では出生率の低下などにより少子高齢化が進んでいる。授業でも学習したが、高齢者の増加や生活を支えていく若者の減少で社会保障などに必要なお金が増加し、将来私たちの負担が大きくなる。今の税のしくみでは、医療などの負担が上昇し続け、生活を支えることが難しくなっていくというのを知った。

現在では、核家族化などにより家族構成の変化やフリーターやパートとして働く人が増加して、個人の働き方も変化が見られるそうだ。そのことが、これからの日本の税のあり方を考えていくうえで重要なことになっている。社会の変化に合わせて、税のしくみについて考えることも必要になってくるということが分かった。

このように、税金は老後の安定したよりよい生活や社会を築き上げていくためや、国の維持や発展のための大きな費用となり、なくてはならないものである。私たち子どもも、普段の生活で消費税を払うことがあったり、教科書や校舎、道路や水道など、税金が使われているものに関わりながら生活している。

私たちは税金のおかげで、

そのほか

『愛媛県納税貯蓄組合連合会長賞』も受賞

「税についての作文」では、ほかに同次の2人が『愛媛県納税貯蓄組合連合会長賞』を受賞しました。

立田 弥さん(下灘中1年)



小野日菜子さん(港南中3年)

